



公益社団法人
日本ナショナル・トラスト協会
The Association of National Trusts in Japan



森の番人モモンガ

設立20周年記念

ナショナル・トラスト全国大会の記録 ～100年後の日本のために～

日時 2013年2月24日(日)

会場 学士会館(東京都千代田区)

主催 公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会

後援 環境省

協賛 (株)竹中工務店、三井住友信託銀行、アムウェイ・ネーチャーセンター、
(株)日本色材工業研究所、Dream World OHATA

ナショナル・トラストは、個人や企業の皆様のご寄付により、豊かな自然や歴史的な環境を買い取り、将来の人々のために永久に守っていく活動です。日本では1964年に鎌倉で始まり、半世紀を経た今、50以上の地域に広がっています。

本大会は、ナショナル・トラストの特徴である「土地の取得」に焦点をあて、100年先の未来に美しい日本を取り戻すため、そして、いま目にすることができる野生の生きものや美しい風景を未来の子どもたちにも手渡すため、多くの方に活動を知っていただく機会として開催しました。

プログラム

【第一部】

13:00 開会挨拶

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会 会長 池谷奉文

13:05 来賓挨拶

環境省自然環境局 局長 伊藤哲夫氏

13:10 話題提供

遠方に土地をお持ちの方へ 出前寄席 OB 会

土地にまつわる詐欺事件について 弁護士 志村和俊氏

13:40 スライドショー トラストで守られている土地

ナビゲーター 八千草薫氏

14:10 活動報告 トラスト活動の今

天然記念物名水ピンチ

公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 会長 漆畑信昭氏

新しい「トトロの森」のご紹介

公益財団法人 トトロのふるさと基金 事務局長 荻野豊氏

14:50 パネルトーク 私たちが100年後の日本のためにできること

NPO法人 ツシマヤマネコを守る会 会長 山村辰美氏

しれとこ 100平方メートル運動推進本部会長、北海道斜里町長 馬場隆氏

公益財団法人 天神崎の自然を大切に作る会 業務執行理事 玉井済夫氏

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会 事務局長 関健志

【第二部】

16:00 交流会

感謝状の贈呈

サポーター（広報大使）委嘱状の交付

各地域の団体からの近況報告

司会 渡部累氏

日本ナショナル・トラスト協会広報大使



開会挨拶

公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会 会長 池谷奉文



本日は設立 20 周年記念ナショナル・トラスト全国大会にご参加いただきありがとうございます。開催にあたり、ご後援、ご協賛をいただきました皆様に心より御礼を申し上げます。また、会場にお越しの皆様、日本中の会員の皆様、国民の皆様の多くのご支援に心より感謝申し上げます。

日本では 50 年ほど前から、全国で様々なトラスト活動が始まっています。30 年前に「ナショナル・トラストを進める全国の会」が設立された後、全国組織を立ち上げようということで、当協会が設立されました。最大の課題は、美しい自然と歴史的環境を守って、持続可能な社会をどうつくるかということでした、それは世界的な方向でもあります。

当協会のナショナル・トラスト活動も皆様のご支援に

より順調に推移し、今年の 1 月には奄美大島に約 100ha の土地が購入できました。アマミノクロウサギやルリカケスなど、多くの希少な野生生物が生息しているところです。自然が豊かな奄美大島ですが、一方で広範囲な開発も進んでいます。現在、当協会は日本全国に 18 カ所の土地を取得しておりますが、まだまだ守らなければならない重要な土地がたくさんあります。今回、奄美の土地の購入資金を皆様のご支援で集めるキャンペーンを成功させ、日本中に大きく広げていきたいと思っています。

今後は、海外のナショナル・トラストとも、より一層連携を深めつつ、目先の発展だけではなく、本当の意味の美しい日本を取り戻すという最終的な目標に向かって努力してまいりたいと思います。これからも、ご支援よろしくお願い申し上げます。

来賓挨拶

環境省 自然環境局 局長 伊藤哲夫様



日本ナショナル・トラスト協会におかれましては、前身の「ナショナル・トラストを進める全国の会」の時代から 30 年にわたり我が国のナショナル・トラストの全国組織として、各地の活動を支援してこられました。また、常に日本のナショナル・トラスト活動の更なる飛躍を目指して取り組んでおられることに深く敬意を表します。

本日のテーマは「100 年後の日本のために」とうかがっておりますが、昨年 9 月閣議決定されました「新しい生物多様性国家戦略 2012～2020」におきましても、100 年先を見通した自然共生社会における国土のグランドデザインの実現に向けて、生態系ネットワークの形成などを進めるとしております。こうした目標の達成のためには、市民、事業者など多様な主体が連携して取り組むことが不可欠であり、民間のセクターにより生物多様性の基盤である土地を確保するナショナル・トラスト活動は、

行政の施策と連携し互いに補完し合う、大変重要な取り組みと認識しています。

先程、奄美のトラストの話がでしたが、環境省は今、奄美・琉球諸島の世界遺産登録に向けて取り組んでおります。そうした中で、この度の協会の取り組みは非常に心強い後押しとなり、大変感謝しております。

経済的な発展だけではなく、本当の意味での美しい日本を将来の世代に残していくためには、皆さま方と私ども行政が連携していくことが重要だと思っております。今後のナショナル・トラスト活動の促進のために、政府としても出来る限りの努力をしていきたいと考えています。

最後に、全国各地からご参集いただいた皆様のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

話題提供



遠方に土地をお持ちの方へ

出前寄席 OB 会 室野井さん、渡邊さん

森や原野の所有者を狙う悪質商法などをわかりやすく取り上げた漫才。

相続した、はるか遠い地方にある土地を題材に、原野商法やその二次被害が身近な問題だと気づかせ、ナショナル・トラストがそのような土地を活かす一つの手段であることを紹介してくださいました。

土地にまつわる詐欺事件について

古河法律事務所 弁護士 志村和俊さん



最近、トラスト団体に原野や山林を寄付する方が増えていますが、その際に、原野等の土地を高値で売りつける原野商法やその二次被害についての話を聞くことが多々あります。そこで今回は、法律の観点から、土地所有者を対象とした土地にまつわる詐欺手法について、実際の相談事例を示しながら現状をお話いただきました。

高齢化社会が進む中、思いがけない詐欺事件に巻き込まれないために、どう予防するかというお話でした。予防策の一つの方法として、ナショナル・トラストへの土地の寄付が紹介されました。



Amway Nature Center



美しさを創り出すことで、
生活・文化の向上に貢献します

株式会社 日本色材工業研究所

スライドショー トラストで守られている土地



ナショナル・トラストサポーター 八千草薫さん

八千草薫さんのナビゲートで、日本ナショナル・トラスト協会と協会の団体会員によって守られている国内の美しい自然や風景を紹介しました。

六甲山の麓で育った子ども時代のこと、北海道のしれとこ 100 平方メートル運動に参加したこと、AC ジャパンのテレビ CM の撮影で柿田川に行った時のことなど、エピソードも交えて話をしてくださいました。八千草さんの優しい語りと、各団体会員から提供してもらった美しい写真で、トラスト活動の具体的なイメージを分かりやすくお伝えしました。



活動報告

天然記念物名水ピンチ

公益財団法人 柿田川みどりのトラスト 会長 漆畑信昭 氏



柿田川は、静岡県清水町のほぼ真ん中を流れるわずか1.2kmの小さな川です。すべて富士山の伏流水で、地域住民35万人の貴重な飲料水となっています。この水が、柿田川の素晴らしい生態系を育てています。

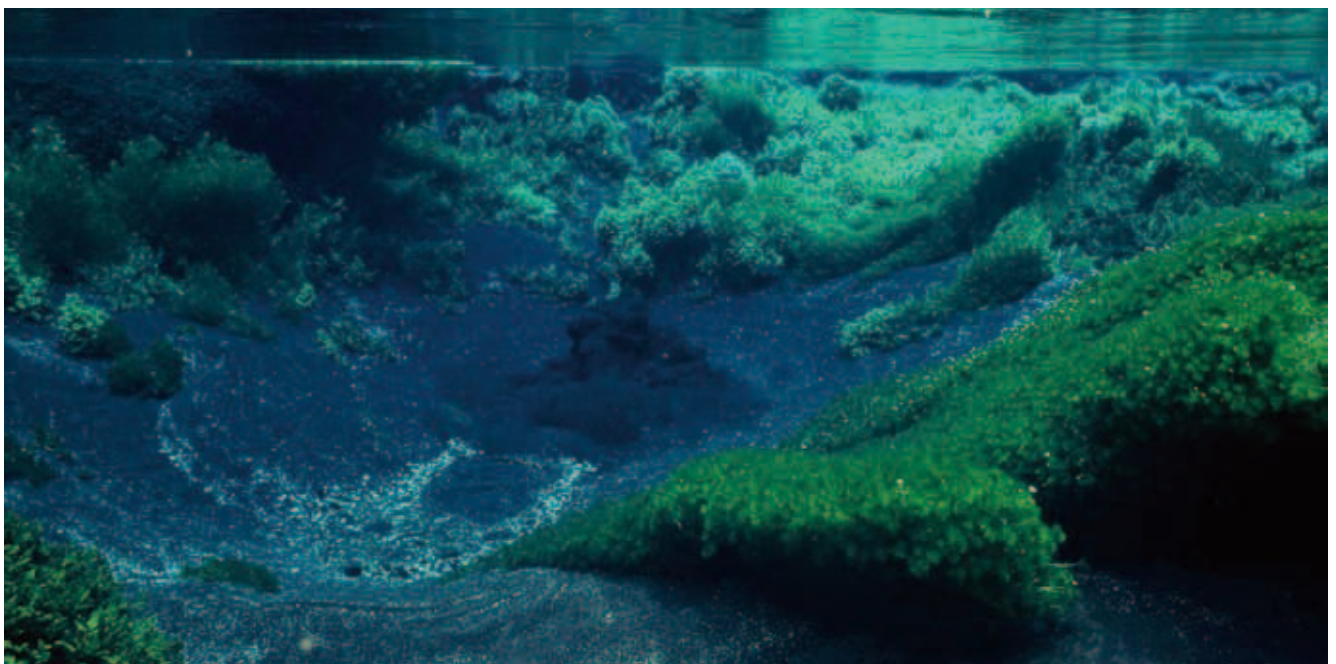
東日本大震災で発生した大量のがれきの広域処理を、国が要請したところ、静岡県を含む10都府県が名乗りを上げました。県内で引き受けたのは、静岡市、浜松市、富士市、島田市、裾野市の五市で、このうち問題なのが裾野市です。岩手県大槌町や山田町のがれきを処理するのですが、焼却灰を埋める裾野市の廃棄物最終処分場は、水を透過しやすいスコリア層上にあり、大雨が降ると柿田川の地下水を汚染する可能性があります。これを知った、私たちの会と周辺の九つの自然保護団体は、静岡県知事、裾野市長に面会し、「苦渋の選択ですが焼却は認めます。ただし、焼却灰の埋立は絶対にやめてほ

しい。他の場所に埋めるか、山田町に返してください」と訴えました。さらに知事には「もし風評被害が出ればブランド商品である三島の鰻や沼津のアジの干物にも大きなダメージを与えます。それに対して責任を持ちますか?」と問いかけました。すると、県知事は「私も柿田川の大切さは十分分かってます。風評被害の張本人にはなりません」とおっしゃいました。

環境省に確認したところ、裾野市と山田町が合意すれば焼却灰の返送は可能との回答を得たので、県の責任者に連絡しましたが、数か月たっても返事はありません。山田町からは「町内に最終処分場がないが、委託先の宮古市にはスペースがあるから何とかできるでしょう」と言っていただけでした。ただし、静岡県と岩手県で調整してほしいということだったので、静岡県知事、裾野市長に「環境省と山田町の内諾を得たの

で、焼却灰の山田町返送を進めてほしい」と要望書を出しました。しかし、知事からの回答は、岩手県下の最終処分場に余裕がないとのことでした。役所というところは自分たちの決めたことがたとえ間違ってもなかなか撤回しないところなのだと感じました。

裾野市の管理型廃棄物処分場の焼却灰の処分は、縦8m、横16m、深さ約4mの穴に粘土質の土を積み、ゼオライトを敷いた上に、袋入りの焼却灰を二段重ねにし、土を被せるというものです。ビニールは経年劣化するため、豪雨の時に柿田川の地下水をセシウムやカドミウムが侵す公算は大です。天災で放射能に汚染されるのは我慢します。しかし、38年間、血みどろの努力で守ってきた柿田川の地下水が人為的手段で汚染されるのは断腸の思いです。





新しい「トトロの森」のご紹介

公益財団法人 トトロのふるさと基金 事務局長 荻野豊 氏

私たちの保全活動の舞台は狭山丘陵です。映画「となりのトトロ」のモデル地とも言われる、都心から40kmほど離れたところにある、3,500haの市街地の中に浮かぶ緑の孤島です。およそ1,000種の植物と200種以上の野鳥、多くの昆虫類などが生息し、生きものの大変豊かな丘陵です。縄文の昔から人の生活の跡が残り、文化財等もたくさん発見されています。



緑の孤島のような狭山丘陵

狭山丘陵では高度成長期以降、住宅開発や大学の建設等の大規模開発が次々とおこり、里山の風景はかなり消えていってしまいました。そうした自然の喪失に対し、市民が集まり、1990年4月、「トトロのふるさと基金」というナショナル・トラスト団体を立ち上げ、今日まで活動を続けています。

スタートして1年4か月が経った、1991年8月に「トトロの森」の1号地が誕生しました。大規模な墓地開発計画があり、実現すると多くの緑が失われる可能性がありました。そこで、計画地に隣接する雑木林を取得することで、地元の行政を動かし、現在では全ての緑地が残されています。私たち市民団体にできることは、最初に動いて、多くの方を巻

き込み、保全の機運を高めることだと思います。1号地取得の翌年には、地元の所沢市、そして、翌々年には県のトラスト基金で周辺一帯が保全されました。1号地と比べ、面積は32倍、金額は28倍もの緑地が守られました。

1996年には2号地を取得し、多くの方のご支援により、2010年ごろからは年に3箇所程のペースでトラスト地が増えています。2011年には15号地を初めてご寄付により取得しました。2012年にも、新たに3箇所土地を取得し、「トトロの森」は18号地まで増えました。また、2004年に取得し、現在は事務局が入っている「クロスケの家」と呼んでいる古民家は、間もなく、国の登録有形文化財になる予定です。これまでの

23年間の活動で、集まった寄付金は4億円を超え、約3万m²を取得してきました。地価が高いため、大面積は難しいですが、これからも少しずつトラスト地を増やしていきたいと思っています。

最近、県や市、地元の自治会や自然保護団体、企業等と協力し、美しい里山を残すための協定の締結にも力を入れています。また、県、所沢市、入間市、西武鉄道、そして私たちの会とで協定を結び緑の森博物館の保全活動を進めています。活動は、多くのボランティアの皆さんや関係する企業、行政の方々との連携により成り立っています。今後も力を合わせて、狭山丘陵の保全に努めていきますので、ご支援よろしくお願ひします。



16号地



17号地



18号地

16号地…土地の寄付で取得 17号地…土地の寄付で取得。初の東京都での取得
18号地…風景が美しい一角。近くに湧水もある

パネルトーク 私たちが100年後の日本のためにできること

多くの人の想いにより守られてきた各地のナショナル・トラストの歴史と現状を、知床、天神崎、対馬で活動するリーダーと共に振り返り、100年後の日本のためにあるべきナショナル・トラストの理想について語り合いました。



しれとこ 100 平方メートル運動推進本部
会長・斜里町長 馬場隆氏

北海道の北東部、知床世界自然遺産の町、斜里町で、かつての開拓跡地を開発から守り、原生の森を取り戻す「しれとこ 100 平方メートル運動」を展開。

1977年にスタートして1997年に募金目標を達成し、2010年に保全対象地 471.8ha のすべてを取得。

1997年からは「100 平方メートル運動の森・トラスト」と題して新たな、森づくり・生態系回復の活動を進めている。



公益財団法人 天神崎の自然を大切にする会
業務執行理事 玉井済夫氏

和歌山県田辺市で森・磯・海が一体となり豊かな生態系を形作っている天神崎を、別荘地の開発計画から守るために活動を開始。

1974年にスタートしてから今年で39年。保全面積は目標の18haの46.3%に達している。

活動の発起人である外山八郎氏の「敵から守るのではない。みんなでこの自然を大切にしていく。」との思いから「天神崎の自然を“大切にする”会」という名称を用いている。



NPO 法人 ツシマヤマネコを守る会
会長 山村辰美氏

日韓国境の島、長崎県の対馬で、絶滅が危惧されるツシマヤマネコの保護活動を20年間続ける。2010年よりヤマネコの住处となる森を守るトラスト活動を開始し、現在の保護区の面積は合計 8.4ha。

ツシマヤマネコが絶滅したカワウソのようにならないよう、地元の間人がしっかり守らなければという思いで活動を続けている。

ときには一人で、トラスト地の管理作業など精力的に活動に取り組んでいる。

なぜ、トラストが必要だったのか？

馬場：当時は、開拓跡地をそのままにしておけば、知床半島の森の中にビルやホテルなどが建ってしまうのではないかという切迫感がありました。私たちの町は漁業や林業、観光など自然の恵みで生きています。そのため自然環境の破壊は、地域全体に影響し、生活の基盤を失うことを意味します。そのため、当時の藤谷町長の提案でトラスト活動をはじめました。

玉井：天神崎の活動対象地は、県立自然公園の一部です。自然そのものの価値に加え、子どもたちの学びの場としての大きな役割があります。しかし、自然公園の中では規制が緩い区域に指定されていたため、開発に対して行政の側では打つ手がありませんでした。そこで何としても天神崎の自然を守らなければならないという決意のもと、自分たちで土地の買い取り運動をはじめました。

日本は国土の約70%が森の国と言われ自然が豊かなように誤解されがちです。また、自然公園などに指定されていると自然が保全されていると思われがちですが、法律等により確実に開発から守られているのは国土の5%だけです。道路やダムなどの公共事業のように受益者が明確であればお金が使われることにも理

解が得られますが、自然環境の保全にお金を使うことには理解が得難いという現状もあります。このため、行政だけでは守りきれず、民間によるトラスト活動が必要となっています。豊かな自然環境を「資本」としてとらえ、地域経済を支える環境を守るという点で、ナショナル・トラストの意義は大きいと言えます。

トラストの課題は？

山村：ツシマヤマネコは人里に近い里山の農地等でも餌をとりますが、最近は耕作放棄地が増えたり、シカやイノシシの増加で山が荒らされたりして、餌となる小動物が減っています。餌を求めて里地に下りてきて、車にはねられる事故も多発しています。耕地を借り小動物が増えるよう耕作をしていますが、トラスト地の中でも小動物を増やす活動が必要です。

馬場：原生の森を取り戻すことがゴールのため、森づくりに取り組んでいますが、シカの食害がひどく、シカ対策に追われているのが現状です。

玉井：森は自然の遷移に任せていますが、田んぼの跡地は湿地として維持するために、毎年水域内の草の除去など管理を続けています。

自然と人間が活動する場所の狭間にある里地や里山は、生物の豊かなところですが、今後は耕作放棄地となっていくことが予想されます。トラスト地として

守っていくためには農地法の関係で土地取得が難しいことや、継続的な管理が必要といった課題があります。

100年後の未来のために

トラスト活動は土地を守る活動です。持続的な土地利用を考えた場合、国におけるエコロジカル・ネットワークの一翼を担うナショナル・トラストは大きな意味のある活動と言えます。経済界では、世界的な潮流として、自然の価値を経済的に評価するということが主流となりつつあります。トラスト地を重要な自然資本ととらえ、高く評価することで、トラスト活動の受

益者がすべての国民であるという意義も広く伝えることができます。そうした経済界の動きに期待しつつ、私たちは、「点」である個々の活動がたくさん集まって「面」となり、そして輪になって地球全体に広がっていくように、理解者を増やし、活動を確実に将来世代へつなげていきたいと思います。



交流会

設立 20 周年にあたり、設立間もないころより継続してご支援いただいている団体賛助会員の皆様へ感謝の意を込めて、感謝状をお贈りしました。

アムウェイ・ネチャーセンター様、岩谷産業(株)様、(株)竹中工務店様、(株)日本色材工業研究所様、フドーキン醤油(株)様、長きにわたるご支援ありがとうございます。当日は、ご出席くださった岩谷産業株式会社様に感謝状を贈呈しました。

司会を担当した渡部累さんには、広報大使としての委嘱状を交付しました。今後も様々な形でナショナル・トラスト推進のためにご活躍いただきたいと思えます。



開会挨拶 愛知和男 最高顧問



乾杯 台湾ナショナル・トラスト 王会長

交流会には、約 60 名の参加がありました。各地のトラスト団体による近況報告のほか、参加者同士の情報交換や交流も賑やかに行われました。



信託で守る

ナショナル・トラスト



サステナブル建築は
地球がのぞむスタンダード。




SUSTAINABLE
WORKS®
サステナブル・ワークス

持続可能な社会を未来へ

例えば、生物多様性の保全、資源循環の推進、
地球温暖化対策……。
美しい地球を未来の子供たちに遺すため、
建築に課せられたテーマは、たくさんあります。
私たちは、皆さまのパートナーとして
サステナブルな社会を、一緒に築き上げたいと願っています。

想いをかたちに

 竹中工務店

お問い合わせは ————— 広報部へ
〒136-0075 東京都江東区新砂1丁目1-1 Tel.03(6810)5140
〒541-0053 大阪市中央区本町4丁目1-13 Tel.06(6263)5605